

## <研究報告>

# クリティカルケア看護領域に勤務する看護師の 認定看護師、専門看護師、修士・博士号取得に対する認識 －勤務する施設の所在地域による比較－

神田直樹<sup>1)</sup>、門間正子<sup>2)</sup>、中井夏子<sup>3)</sup>、  
皆川ゆり子<sup>4)</sup>、田口裕紀子<sup>5)</sup>、城丸瑞恵<sup>3)</sup>

抄録：クリティカルケア看護領域のキャリア開発サポートの基礎資料として、A県の中核都市部の看護師143人と地方都市部の看護師223人の認定看護師、専門看護師、修士・博士号への役割認知や各資格・学位への関心、必要と考えるサポート事項について調査し、地域によって差異があるか検討した。各資格・学位に対する役割認知は、専門看護師、修士・博士号で差はなかったものの、認定看護師では地域による差がみられ、地方都市部で有意に役割を認知していた。各資格・学位取得への関心は、地域による差はなかった。必要と考えるサポート事項は、経済的サポートが地方都市部で有意に高かった。診療報酬の改定やチーム医療の推進により認定看護師と協働する機会は多いものの、役割認知は都市部が低い傾向にあり、認定看護師の役割認知を高める取り組みが必要と考えられた。各資格・学位への関心の地域差はなかったものの、先行研究との比較では関心の度合いに違いがあり、キャリア開発の方向性は地域によって差があることが推察された。また、地方都市部では、生活背景や通学への懸念から「経済的支援」を必要としており、地方都市部に勤務する看護師のキャリア開発サポートを行う上で重要な項目であることが考えられた。

以上より、地域特性や施設特性に応じたキャリア開発支援のシステム整備や体制作りが必要であることが示唆された。

キーワード：キャリア開発、クリティカルケア看護、認定看護師、専門看護師、修士・博士号

### I. はじめに

社会が求める看護師の役割は多様になっており、それに応じた看護師個々のキャリア開発は看護の質を高めるために重要である。これまで、多くのキャリア開発に関する報告が行われているが、対象が中堅レベルの看護師を対象にしたもの（柿原ら，2012）や1施設を対象にしたもの（高木ら，2012；本田ら，2013；津本ら，2008）が多く、多施設の看護師を対象にした研究は少ない。

看護師のキャリア開発のニーズは、専門的志向が高いことが明らかにされている（平井ら，2001）。クリティカルケア看護領域は、急性・重症患者看護専門看護師の

みならず、集中ケア、救急看護、小児救急、新生児集中ケア、手術看護など多くの認定看護師分野が関連していることや関連する学会も多数あることから、将来のキャリアデザインとしてスペシャリストや学位取得を志向する看護師が多い分野と考えられる。しかし、クリティカルケア領域を対象にしたキャリア開発に関する研究は十分に行われてない。そこでわれわれはA地区のクリティカルケア看護領域の看護師を対象にキャリア開発に関する実態調査を行った。その結果、将来のキャリアデザインとして認定看護師への関心が高く、資格取得に必要な事項として「経済的余裕」と「休暇取得のサポート」が必要と考えられていることが明らかになった（皆川ら，2014）。しかし、認定看護師教育機関や専門看護師教育機関、看護系大学院は増えているものの地域によって偏りがあり、進学環境は居住地域によって異なる。このことからキャリア開発に対する考え方も地域によって相違が生じると考えられた。居住地域による考え方の相違を明らかにすることは、具体的な看護師のキャリアニーズ

<sup>1)</sup> 北海道医療大学看護福祉学部看護学科

<sup>2)</sup> 日本医療大学保健医療学部看護学科

<sup>3)</sup> 札幌医科大学保健医療学部看護学科

<sup>4)</sup> 北海道立子ども総合医療・療育センター

<sup>5)</sup> 札幌医科大学附属病院高度救命救急センター看護室

の把握につながり、施設特性や地域に応じたキャリア開発のサポート体制構築に寄与するものとする。本研究ではこれまでのわれわれの研究（田口ら, 2013; 皆川ら, 2014）をふまえて中核都市部と地方都市部の看護師の認定看護師、専門看護師、修士・博士号取得に対する認知や関心、必要と考える事項について調査を行った。

## II. 研究目的

クリティカルケア看護領域の中核都市部に勤務する看護師と地方都市部に勤務する看護師の認定看護師、専門看護師、修士・博士号に対する役割認知、資格および学位取得への関心、資格および学位取得に必要なサポートを明らかにする。さらに、資格および学位に対する役割認知、資格および学位取得への関心や必要と考えるサポート事項について、地域によって差異があるか否かについて明らかにする。

## III. 本研究における用語の定義

**キャリア開発**：個人の職業としての成長・発達と組織の目的達成を通じての拡充・発展を両立・統合し、相互に開発するもの（平井, 2009）。

**認識**：対象者の認定看護師、専門看護師、修士・博士号に対する役割認知、資格および学位取得への関心や必要と考えるサポート事項のこと。

**中核都市部**：A地区の政令指定都市が含まれる2次医療圏の地域とする。（2次医療圏人口は約234万人）

**地方都市部**：A地区の政令指定都市が含まれない2次医療圏のすべての地域とする。（最少の2次医療圏人口は約3万5千人、最多の2次医療圏人口は約40万人）

**クリティカルケア看護領域**：潜在的あるいは実在の問題により生命危機状態にある患者を対象にした看護の分野。本研究では、救命救急センターが併設されている施設の救急部門、集中治療部門に所属する看護師が活動している分野とする。

## IV. 研究方法

### 1. 調査対象

一般社団法人日本救急医学会の全国救命救急センター一覧(2012年1月現在)よりA地区に属する施設の中で、同意の得られた10施設のクリティカルケア看護領域に所属する看護師495人。

### 2. 調査期間

2012年3月～2012年4月30日

### 3. 調査方法

留め置き郵送法による自記式質問紙調査を実施した。所属施設の看護部長に文書で研究内容を説明し、協力の可否および研究協力者と対象者の照会を依頼した。同意が得られた施設の研究協力者に質問紙を郵送し対象者への配布、回収を依頼した。質問紙には、研究の趣旨および倫理的配慮に関する事項を説明した文書と回収用封筒を添付し、本研究に同意の得られた対象者のみ回収することとした。質問紙は添付した回収用封筒に入れ閉封された状態で研究協力者によって集められ、質問紙は研究協力者から郵送により回収した。

### 4. 調査内容

調査は独自に作成した自記式質問紙を用いて実施した。

#### 1) 対象者の属性

対象者の属性は、性別、年齢、看護師経験年数、クリティカルケア看護領域経験年数、家族構成、最終学歴、職位、所属部署、所属施設の所在地域とした。

#### 2) 認定看護師、専門看護師、修士・博士号に対する役割認知

認定看護師、専門看護師、修士・博士号に対する役割認知については、それぞれの役割を「よく知っている」「やや知っている」「どちらとも言えない」「あまり知らない」「全く知らない」の5段階から、関心の有無を「とても関心がある」「やや関心がある」「どちらとも言えない」「あまり関心がない」「全く関心がない」の5段階から、それぞれ一つのみ選択とした。

#### 3) 認定看護師、専門看護師、修士・博士号取得に必要なと考える事項

認定看護師、専門看護師、修士・博士号取得に必要なと考える事項については、「家族のサポートが必要である（以下家族サポート）」「自分の経済的余裕が必要である（以下経済的余裕）」「病院の経済的サポートが必要である（以下経済的サポート）」「病院の休暇取得のサポートが必要である（以下休暇取得のサポート）」「所属部署の上司のサポートが必要である（以下上司のサポート）」「所属部署の同僚のサポートが必要である（以下同僚のサポート）」「役割モデルとなる人の存在が必要である（以下役割モデルの存在）」「相談できる人が必要である（以下相談できる人）」「教育機関への通いやすさが必要である（以下教育機関への通いやすさ）」「職場で資格取得の意思表示をする場や方法の明確化が必要である（以下意思表示の場や方法の明確化）」「資格取得のための情報が必要である（以下資格取得情報）」の11項目について「とてもそう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の5

段階から一つのみ選択とした。

## 5. 分析方法

対象者の回答した所属施設の所在地域から中核都市部（以下都市群）と地方都市部（以下地方群）に分類し記述統計を実施した。認定看護師、専門看護師、修士・博士号の役割認知については、「よく知っている」「やや知っている」を「知っている」、「どちらとも言えない」を「どちらとも言えない」、「あまり知らない」「全く知らない」を「知らない」として集計した。また、認定看護師、専門看護師、修士・博士号に対する関心については「とても関心がある」「やや関心がある」を「関心あり」、「どちらとも言えない」を「どちらとも言えない」、「あまり関心がない」「全く関心がない」を「関心なし」と分類し集計した。資格・学位取得に必要と考える事項については、「とてもそう思う」「ややそう思う」を「そう思う」、「どちらとも言えない」を「どちらとも言えない」、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を「そう思わない」として集計した。認定看護師、専門看護師、修士・博士号の役割認知、資格・学位取得への関心、資格・学位取得に必要と考える11項目の都市群と地方群の比較には $\chi^2$ 乗検定を行い分析した。分析はSPSS12.0J for Windowsを用い、 $p < 0.05$ を有意差ありとした。

## 6. 質問紙の妥当性の検討

看護系大学教員、急性・重症患者看護専門看護師、救急認定看護師による専門家会議を実施し質問紙の調査項目の妥当性について検討した。また、調査開始前に対象者以外の看護師10名にプレテストを実施し、目的を達成するために必要なデータが得られるか検討し本調査を実施した。

## 7. 倫理的配慮

本研究はB病院看護部研究倫理審査委員会の承認を受け実施した。調査に際し、対象施設に文書で研究目的、趣旨、倫理的配慮を説明し研究の可否を確認した。研究に協力を得られた施設の対象者に対し、文書で研究目的、趣旨、研究参加の自由意志、匿名性と守秘義務の遵守、データの秘匿、データの保管方法および廃棄方法、質問紙の返送をもって研究への参加に同意が得られたものとする、結果の公表方法等について説明した。

## V. 結果

### 1. 対象者の属性

調査対象495人のうち366人より回答があり、回収率は73.9%、有効回答率100.0%であった。所在地域別の内訳は都市群143人（39.0%）、地方群223人（61.0%）であった。対象者の概要を表1に示す。

対象者の性別は、都市群で男性23人（16.1%）、女性120人（83.9%）、地方群で男性35人（15.7%）、女性186

人（83.4%）、無回答2人（0.9%）であった。年齢は都市群が33.3歳（SD=8.0）、地方群が34.0歳（SD=9.0）であり、いずれも30歳代の対象者が最も多く、次いで20歳代が多かった。看護師経験年数は、都市群が11.8年（SD=7.0）、地方群が平均12.0年（SD=7.4）であり、都市群では10年以上15年未満が最も多く、地方群では5年以上10年未満が最も多かった。クリティカルケア看護領域経験年数は、都市群が4.9年（SD=4.4）、地方群が5.7年（SD=4.9）であり、いずれも5年未満の経験が最も多かった。職位は、いずれの群もスタッフが80%以上を占めていた。所属部署は、都市群が救急部門103人（72.0%）、集中治療部門34人（23.8%）、無回答6人（4.2%）、地方群が救急部門152人（68.2%）、集中治療部門67人（30.0%）、無回答4人（1.8%）であった。家族構成は、都市群で配偶者ありが41人（28.7%）、子どもありが31人（21.7%）、地方群で配偶者ありが93人（41.7%）、子どもありが70人（31.4%）であった。最終学歴は、都市群、地方群共に看護師養成所（3年課程）が最も多く、次いで大学が多かった。都市群と地方群の比較では、配偶者の有無と子どもの有無において有意差を認めた（ $p < 0.05$ ）。

表1 対象者の背景

項目	内訳	全体 n=366 人数 (%)	都市群 n=143(39.0%) 人数 (%)	地方群 n=223(61.0%) 人数 (%)
性別	男性	58 (15.8)	23 (16.1)	35 (15.7)
	女性	306 (83.7)	120 (83.9)	186 (83.4)
	無回答	2 (0.5)	0 (0)	2 (0.9)
年齢	平均	33.7±8.6歳	33.3±8.0歳	34.0±9.0歳
	20歳代	100 (27.3)	40 (28.0)	60 (26.9)
	30歳代	177 (48.4)	71 (49.6)	106 (47.6)
	40歳代	70 (19.1)	28 (19.6)	42 (18.8)
	50歳代	12 (3.3)	2 (1.4)	10 (4.5)
	60歳以上	1 (0.3)	0 (0)	1 (0.4)
	無回答	6 (1.6)	2 (1.4)	4 (1.8)
看護師経験年数	平均	11.9±7.2年	11.8±7.0年	12.0±7.4年
	5年未満	52 (14.2)	22 (15.4)	30 (13.5)
	5年以上10年未満	92 (25.2)	33 (23.1)	59 (26.4)
	10年以上15年未満	88 (24.0)	37 (25.8)	51 (22.9)
	15年以上20年未満	71 (19.4)	26 (18.2)	45 (20.2)
	20年以上	56 (15.3)	23 (16.1)	33 (14.8)
	無回答	7 (1.9)	2 (1.4)	5 (2.2)
クリティカルケア 看護分野経験年数	平均	5.4±4.7年	4.9±4.4年	5.7±4.9年
	5年未満	190 (51.9)	79 (55.2)	111 (49.7)
	5年以上10年未満	109 (29.8)	46 (32.2)	63 (28.3)
	10年以上15年未満	43 (11.7)	10 (7.0)	33 (14.8)
	15年以上20年未満	15 (4.1)	5 (3.5)	10 (4.5)
	20年以上	4 (1.1)	2 (1.4)	2 (0.9)
	無回答	5 (1.4)	1 (0.7)	4 (1.8)
職位	看護師長	10 (2.7)	5 (3.5)	5 (2.2)
	看護副師長・主任	38 (10.4)	12 (8.4)	26 (11.7)
	スタッフ	315 (86.1)	126 (88.1)	189 (84.8)
	無回答	3 (0.8)	0 (0)	3 (1.3)
所属部署	救急部門	255 (69.7)	103 (72.0)	152 (68.2)
	集中治療部門	101 (27.6)	34 (23.8)	67 (30.0)
	無回答	10 (2.7)	6 (4.2)	4 (1.8)
	無回答	3 (0.8)	0 (0)	3 (1.3)
家族構成	配偶者あり*	134 (36.6)	41 (28.7)	93 (41.7)
	配偶者なし*	232 (63.4)	102 (71.3)	130 (58.3)
	子どもあり*	101 (27.6)	31 (21.7)	70 (31.4)
最終学歴	大学院	3 (0.8)	1 (0.7)	2 (0.9)
	大学	56 (15.3)	22 (15.4)	34 (15.2)
	短期大学	21 (5.7)	12 (8.4)	9 (4.0)
	看護師養成所(3年課程)	227 (62.1)	80 (55.9)	147 (66.0)
	看護師養成所(2年課程)	42 (11.5)	20 (14.0)	22 (9.9)
	その他	15 (4.1)	8 (5.6)	7 (3.1)
	無回答	2 (0.5)	0 (0)	2 (0.9)

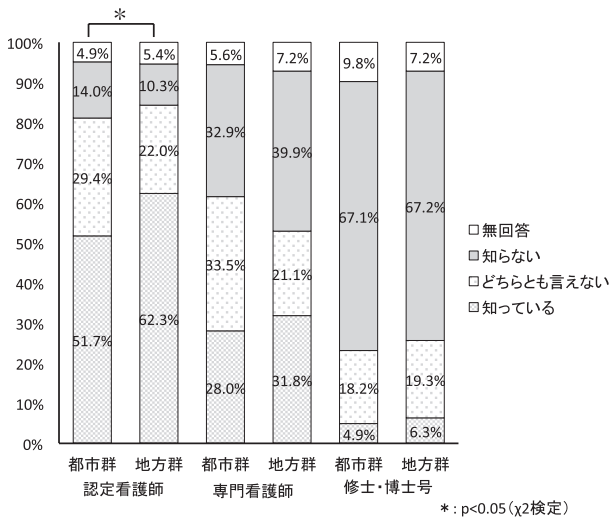
\*  $p < 0.05$  ( $\chi^2$ 検定)



## 2. 認定看護師、専門看護師、修士・博士号の役割認知

認定看護師の役割認知は、「知っている」が都市群74人(51.7%)、地方群139人(62.3%)であり、「知らない」は都市群20人(14.0%)、地方群23人(10.3%)であった。専門看護師の役割認知は、「知っている」が都市群40人(28.0%)、地方群71人(31.8%)であり、「知らない」は都市群47人(32.9%)、地方群89人(39.9%)であった。修士・博士号の役割認知は、「知っている」が都市群7人(4.9%)、地方群14人(6.3%)であり、「知らない」は都市群96人(67.1%)、地方群43人(67.2%)であった(図1)。都市群と地方群の各役割に対する役割認知の比較では、認定看護師で都市群と地方群に有意差が認められた( $p < 0.05$ )。専門看護師、修士・博士号に対する役割認知の有意差は認められなかった。

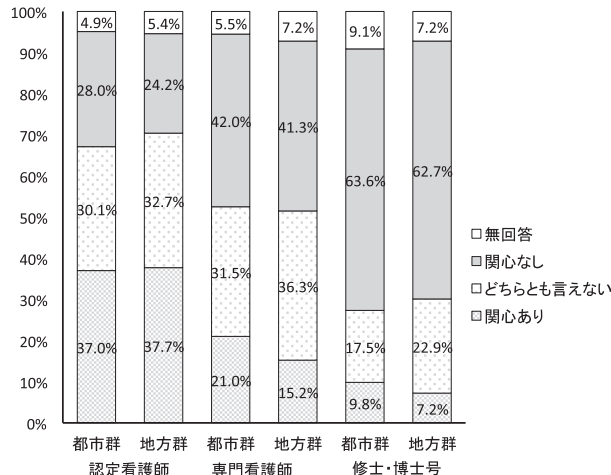
図1 資格・学位取得看護師の役割認知



## 3. 認定看護師、専門看護師、修士・博士号への関心

認定看護師への関心は、「関心あり」が都市群53人(37.0%)、地方群84人(37.7%)であり、「関心なし」は都市群40人(28.0%)、地方群54人(24.2%)であった。専門看護師への関心は、「関心あり」が都市群30人(21.0%)、地方群34人(15.2%)であり、「関心なし」は都市群60人(42.0%)、地方群92人(41.3%)であった。修士・博士号への関心は、「関心あり」が都市群14人(9.8%)、地方群16人(7.2%)であり、「関心なし」は都市群91人(63.6%)、地方群140人(62.7%)であった(図2)。都市群と地方群で各資格および学位取得への関心の有意差は認められなかった。

図2 資格・学位取得に対する関心



## 4. 認定看護師、専門看護師、修士・博士号取得に必要な事項と考える事項

クリティカルケア看護領域に勤務している看護師が考える認定看護師、専門看護師、修士・博士号取得に必要な事項について「そう思う」と回答した結果を図3に示す。都市群では「経済的余裕」が最も多く、次いで「休暇取得のサポート」、「教育機関への通いやすさ」、「資格取得情報」の順であった。地方群では「休暇取得サポート」が最も多く、次いで「教育機関への通いやすさ」、「経済的余裕」、「資格取得情報」の順であった。必要性の少なかった事項としては、都市群、地方群ともに「役割モデルの存在」、「意思表示の場や方法の明確化」の順であった。都市群と地方群の比較では、「経済的サポート」が都市群に比べ地方群で有意に必要と認識していた( $p < 0.05$ )。

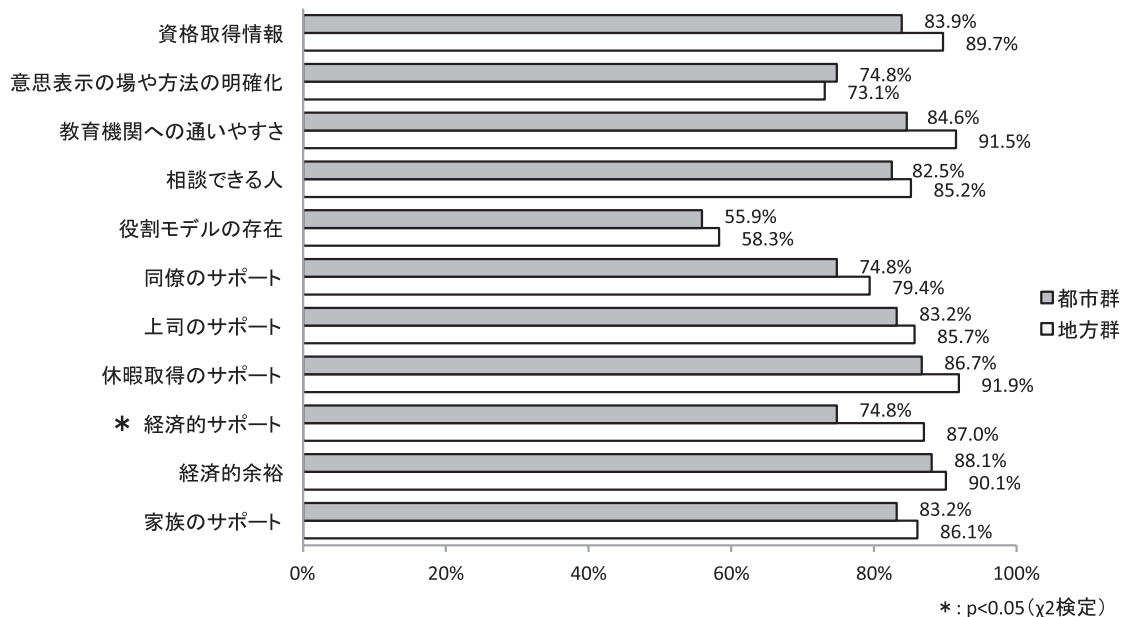
## VI. 考察

### 1. 認定看護師・専門看護師・修士・博士号に対する役割認知の違い

都市群、地方群ともに資格・学位に対する役割認知は、認定看護師、専門看護師、修士・博士号の順で高かった。診療報酬の改定に伴い、褥瘡ハイリスク患者ケア加算や緩和ケア診療加算などの配置要件に多くの認定看護分野が含まれている。診療報酬加算に伴うチーム医療は組織内での横断的活動であり、クリティカルケア看護領域の看護師も多くの認定看護師と協働する機会の中で役割を認知していると考えられる。

都市群と地方群の比較では、認定看護師の役割認知に違いが見られ、都市群に比べ地方群で役割認知が有意に高かった。都市群は地方群に比べ病床数の多い施設が多く、認定看護師の役割周知が施設全体に周知されづらい環境にあると推察される。一方、地方群は病床数200~500床程度の中規模病院が多く、院内の看護師に役割を

図3 資格・学位取得に必要と考える事項



周知しやすい環境におかれていると考えられる。役割周知をしやすい環境にあることは、組織横断的な活動に認定看護師が参画した際、さらに役割認知を高めることにつながる事が予測される。このように認定看護師を取り巻く環境が認定看護師に対する役割認知の地域差を生じた要因と推察される。

専門看護師に関しては、都市群と地方群の比較で役割認知に違いは見られなかった。都市群と地方群の専門看護師の役割認知は30.0%程度であり、地域を問わず専門看護師の役割が十分に浸透しているとは言い難い状況が伺える。専門看護師は医療施設で看護管理者や周囲の理解を得て活動の場や時間を獲得するのが困難な状況に置かれていることが指摘されている（山田ら，2008）。都市群、地方群の専門看護師は、活動環境において困難な状況におかれ、役割遂行や組織横断的な活動が十分にできていない可能性があり、地域を問わず専門看護師の役割認知が低いものと推察される。今後、専門看護師の増加が予測される中、地域を問わず専門看護師に対する各施設の理解と効果的な活用方法の検討の必要性が示唆された。

修士・博士号の役割認知については都市部と地方部の差はなく、ともに5%前後と低かった。都市群・地方群ともに大学院修了看護師は1%未満と少なく、大学院修了看護師と協働する機会の少なさが役割認知の低さに影響しているといえる。賀沢ら（2005）は、大学院入学資格条件を知っている看護師は1割にも満たないことを報告している。修士・博士号修了看護師の役割認知を高めるためには、地域に関係なく看護師を対象とした大学院進学情報の発信や施設における修士・博士号に対する臨床での役割期待を明確にしていくことが必要である。

## 2. 認定看護師・専門看護師・修士・博士号に対する関心の違い

都市群、地方群ともに各資格・学位に対する関心は、認定看護師、専門看護師、修士・博士号の順で高かった。都市群と地方群では各資格・学位に対する関心の差はなく、新たな資格・学位取得に関してのキャリア開発の関心に地域による違いがないことが明らかになった。津本ら（2008）のキャリアニーズに関する調査では、特定分野のスペシャリストを目指す看護師は18.6%、教育・研究者を目指す看護師は3.0%と報告されている。高木ら（2012）の大学病院の看護師を対象にした調査では、認定看護師希望者40.0%、専門看護師希望者は36.2%、看護系大学院への入学・科目履修希望者は3.7%であった。本田ら（2013）の地方の大学病院の看護師を調査した結果では、将来の方向性として特定看護分野のスペシャリストは17.7%、教育・研究者は1.6%であった。今回の調査では認定看護師に関心がある割合は両群ともに約40.0%、専門看護師は約20.0%、修士・博士号は約10.0%であった。「関心」と「希望」では意味合いが異なるが、新たな資格・学位取得を目指すキャリア開発の関心は、今回の調査結果と先行研究を比較しても地域や所属施設によって差があるといえる。この結果から、画一的なキャリア開発支援を展開するのではなく、その地域のニーズに沿ったキャリア開発支援システムを構築する必要性が示唆された。また、専門看護師・認定看護師の正負のイメージがキャリアアップの方向性に影響していることが明らかになっている（柿原ら，2012）。さらに、大学院進学ニーズには地域差があり、進学や継続教育に関する情報提供の必要性も指摘されている（松下ら，2009）。地域のニーズを捉えるだけでなく、資格に関

する情報提供を積極的に行うことがキャリア開発支援にとって重要であり、その情報提供の内容についても施設単位で検討することが課題である。

### 3. 認定看護師・専門看護師・修士・博士号取得のために必要な事項

クリティカルケア看護領域に従事している看護師が考える認定看護師、専門看護師、修士・博士号取得に必要な事項は、都市群、地方群とも経済的余裕、病院休暇サポート、教育機関への通いやすさ、資格取得のための情報が必要と捉えていた。キャリア開発のためには経済的自己投資（柿原ら，2012）や時間的余裕（山川，2012）の必要性が指摘されており、本調査からも経済面や休暇を含む時間の保証の必要性が再確認された。それに加えて学習しやすい環境、有益な情報がキャリア開発に必要な事項として考えられていた。これらの項目は、都市群、地方群ともに共通している事柄であり、地域に関係なく多くの施設でこれらのサポート内容を検討すべきであると考えられる。また、都市群と地方群で必要なサポートについて検討した結果、「経済的サポート」が都市群に比べ地方群で有意に必要と認識していた。背景には都市群に比べ地方群では配偶者や子どもの有無に差があり、単身者に比べ経済的サポートを必要とする生活状況に置かれていると考えられる。また、資格認定機関や大学院は都市部近郊に設置されることが多く、地方群の看護師は進学するためには自宅を離れて生活する必要がある、就業を継続しながらの通学困難や生活費の確保の必要性も背景要因と考えられた。地方群の対象者が大学院に進学するためには、生活環境を維持するための経済的支援が必要であり、その問題が解決できなければ新たな資格や学位取得は困難であることが推察された。組織の看護の質向上のためには、看護師個々に必要なサポートを検討し、支援できる体制を病院単位で整備していく必要がある。

本研究の限界として、A県のクリティカルケア看護領域に勤務する看護師を対象に調査を行っているため、今回の結果は地域特性が影響している可能性がある。また、修士・博士号のそれぞれの役割について提示していないため、個々の対象者によって役割の認識が異なる可能性がある。さらに、認定看護師や専門看護師、修士・博士号取得看護師の各施設の人数や関わりの頻度については調査しておらず、これらの項目が役割認知や関心に影響を与えている可能性もある。今後は複数の地域を対象にした同様の調査を行い、中核都市部と地方都市部のキャリア開発の認識に関して検討が必要である。

## VI. 結論

認定看護師の役割認知は、都市群より地方群の方が有

意に高かった。専門看護師、修士・博士号に対する役割認知は都市群、地方群ともに低く役割の明確化が必要である。各資格に対する関心は、都市群、地方群ともに同様の傾向が見られたが、他地域の看護師を対象とした先行研究と比較し、認定看護師や専門看護師、修士・博士号への関心の度合いは異なっており、キャリア開発の方向性が地域によって違いがあることが示唆された。また、都市群と地方群では必要とするサポート事項の違いが見られ、地域特性や施設特性に応じたキャリア開発支援のシステム整備や体制作りが必要である。

## 謝辞

本研究にご協力いただきました病院の看護管理者の皆様、対象者の皆様に心より感謝申し上げます。

## 文献

- 平井さよ子. (2009). 改訂版 看護職のキャリア開発 転換期のヒューマンリソースマネジメント (第2版), pp.72-73. 東京: 日本看護協会出版会.
- 平井さよ子, 海老真由美, 高橋澄子他. (2001). I市立病院の看護職のキャリア開発に関するニーズと職務満足度における調査. 愛知県立看護大学紀要, 7, 53-60.
- 本田芳香, 春山早苗, 朝野春美他. (2013). 大規模病院で働く看護職のキャリアニーズの特性 -地方都市の大学病院における調査から-. 自治医科大学看護学ジャーナル, 10, 47-57.
- 柿原加代子, 大野晶子, 東野督子他. (2012). 継続勤務している看護師のキャリアアップに関する認識. 日本赤十字豊田看護大学紀要, 7 (1), 153-159.
- 賀沢弥貴, 山田聡子, 飯島佐和子他. (2005). 愛知県立看護大学の教育改革に関する調査 (4) 病院で働く看護師の本学大学院への進学ニーズ. 愛知県立看護大学紀要, 11, 95-107.
- 松下年子, 岡部恵子, 天野雅美他. (2009). 大学病院関連施設に就業する看護師の大学院修士課程入学への関心. 日本看護研究学会雑誌, 32 (4), 39-50.
- 皆川ゆり子, 神田直樹, 門間正子他. (2014). クリティカルケア看護領域に従事する看護師のキャリア発達に関する実態調査 - 認定看護師、専門看護師、修士・博士に対する認識と資格および学位取得に必要と考える事項および情報源 -. 札幌保健科学雑誌, 3, 51-58.
- 日本看護系大学協議会: 看護系大学のリスト, (<http://www.janpu.or.jp/kango/k06.html> 閲覧日2012/10/28)
- 日本看護協会: 認定看護師教育機関別開講状況・定員数一覧, 日本看護協会認定部, (<http://nintei.nurse.or.jp/>)

- nursing/wp-content/uploads/2013/08/CN\_kikan\_itiran201307.pdf 閲覧日2012/10/28)
- 日本看護協会：専門看護師教育機関・課程一覧，日本看護協会認定部，(<http://ninte.nurse.or.jp/nursing/wpcontent/uploads/2013/04/cnsyouikukatei20130423.pdf> 閲覧日2012/10/28)
- 田口裕紀子，門間正子，皆川ゆり子他. (2013). 看護系大学生のキャリア発達に関する実態調査 認定看護師、専門看護師、修士・博士に対する認識と資格取得に必要と考える事項および情報源. 札幌保健科学雑誌, 2, 11-18.
- 高木初子，野崎章子，大塚公一郎他. (2012). 地方都市の大学附属病院で働く看護師のキャリア・ニーズ. 第42回日本看護学会論文集（看護管理），131-133.
- 津本優子，長田京子，樽井恵美子他. (2008). 看護師のキャリア・ニーズの実態 -医療施設の検討-. 島根大学医学部紀要, 31, 25-35.
- 山田紋子，黒田裕子，棚橋泰之他. (2010). 専門看護師と認定看護師が自己報告した役割を遂行する上での困難さに関する質的分析. 北里看護学誌, 12 (1), 18-19.
- 山川信子. (2012). 看護職のキャリア開発について-ワーク・ライフ・バランスとの関連性から支援のあり方を検討する-. 第42回日本看護学会論文集(看護管理), 183-186.



# Regional Differences in Critical Care Nurses' Awareness of the Functions of Certified Nurses, Certified Nurse Specialists and Nurses with Master's or Doctoral Degrees

Naoki KANDA<sup>\*1</sup>, Masako MOMMA<sup>\*2</sup>, Natsuko NAKAI<sup>\*3</sup>, Yuriko MINAGAWA<sup>\*4</sup>,  
Yukiko TAGUCHI<sup>\*5</sup>, Mizue SHIROMARU<sup>\*3</sup>

**Abstract** : With a view to collecting basic data useful for supporting the career development of critical-care nurses, the author conducted a questionnaire survey of 143 nurses working in major urban areas and 223 nurses working in minor urban areas of the same prefecture in Japan. The questionnaire investigated these nurses' awareness of the functions of certified nurses, certified nurse specialists and nurses with master's or doctoral degrees, whether they were interested in earning qualifications and/or degrees, and what types of support they would need for getting qualifications and/or degrees. The survey results were analyzed to identify differences between the attitudes of respondents in major urban areas versus those in minor urban areas.

Although little difference was found between the two types of urban areas in terms of the respondents' awareness of the functions of certified nurse specialists and nurses with master's or doctoral degrees, there was a notable difference between the two types of urban areas in terms of the awareness of the functions of certified nurses. The percentage of respondents who reported being aware of the functions of certified nurses was higher in the minor urban areas than in the major urban areas.

Respondents in the two types of urban areas did not differ much in their interest to earn degrees and other qualifications. Regarding the types of support they reported as being necessary for one to earn a degree or other qualification, the percentage of respondents who reported needing financial assistance was significantly higher in the minor urban areas.

The promotion of team-based medical care and the adjustment to medical care fees paid to medical institutions under the medical insurance system have helped to increase the opportunities for nurses to work with certified nurses. However, the percentage of respondents who reported being aware of the functions of certified nurses was lower in major urban areas than in minor urban areas. Efforts are needed to raise awareness among nurses of the functions of certified nurses.

Although little difference was found between the two types of urban areas regarding the respondents' interest in earning degrees or other qualifications, a comparison of the survey results with the results of a previous study indicates that there are regional differences in the level of interest. This suggests that the aspirations of nurses for career development vary by region.

The respondents working in minor urban areas reported needing financial assistance because they would have to live away from home or commute to a graduate school in a major urban area in order to earn a degree or other qualification. Financial assistance seems to be indispensable for supporting the career development of nurses working in minor urban areas.

The questionnaire survey indicated the necessity of systems and programs that can be used for supporting the career development of critical care nurses by taking into account the characteristics of the facilities and local areas where they are working.

**Key words** : career development, critical care, certified nurse, certified nurse specialist, master's or doctoral degrees

---

\*<sup>1</sup> Department of Nursing, School of Nursing and Services,  
Health Sciences University of Hokkaido

\*<sup>2</sup> Nursing Department, Japan Health Care College

\*<sup>3</sup> Nursing Department, School of Health Sciences, Sapporo  
Medical University

\*<sup>4</sup> Hokkaido medical center for child health and rehabilitation

\*<sup>5</sup> Nurse Station of Emergency and Critical Medical Center,  
Sapporo Medical University Hospital